

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第 6 号

令和4年 12月 7日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

11月 2日 (水)

提案 鳥山 陽子 先生 (東山田小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 伊藤 友輝 先生 (仏向小)

記録 中嶋 祐太 先生 (浅間台小)

1 提案内容 単元名

単元名「北山田の農家のお仕事～Yさんのスマイル野菜づくり～」

2 提案者より

《前回指導案との変更点》

- ・ 11 時間目に区役所の方に来ていただく
- ・ 資料を減らした
- ・ 直売所でのアンケート調査を本時の資料とした。⇒新鮮、品がいい、など
- ・ Yさん本人が本時に登場する。

《今回の指導案検討の視点》

- ・ 学習問題を含めた本時の流れと本時目標について
- ・ 資料について、本時でYさんが登場することについて
- ・ 本時前後の学習の流れについて

視点② (今回は主に視点②について意見が多くありました。)

○社会的事象の意味に迫る本気の学習問題をつくり、追究していくために

- ・ 「市場のSさんの話」はどのような資料を扱うのか。
→飲食店の人が利用しているので、間に合うように市場は朝早くからやっている。なんで緑のトマトが多いのかという話、など
- ・ 直売所のアンケートはいい資料だと感じる。
- ・ アンケートには「新鮮」という言葉がたくさん見られた。Yさんが出荷するまでの時間が分かるとよいのではないか。
→Yさんからいただいたほうれん草を教室で食べたい。
- ・ スーパーにはスーパーの良さがあるということを押さえると、本時の「どうして」につながる葛藤が生まれるのではないか。
- ・ Yさん本人の話を聞くと、多様な理由が出てくる可能性があるので、学習とどうつなげられるか。

- Yさんは何年前から直売所に変えたのか。
→Yさんは約15年前に農家を始めた。ご両親と行っていたのは数年かと思われる。10年以上前か。
- 市場に出荷するメリットは何かあるか。
→売れなくても利益がでる。
- 3年生の考える「新鮮」とは、どういうことなのか。
- クラスの「あの子」を想定した授業にするとよい。
- アンケート資料を出して消費者の思いに寄せた後に、また生産者の思いに戻るという部分が3年生では複雑に感じる部分もあるのではないかと。新たな事実が分かる話をYさんにしてもらおうということであれば、聞く価値が高まるのではないかと。

<講師の先生より> 日枝小学校 校長 加藤 智敏先生

○学習問題「どうして直売所に出荷しているのだろう」を提示したときに、どの視点で考えるのか。以前は出荷していたのにという視点か、距離が近いからという視点か、などでも変わる。

○社会の授業で「もの食べる」「人を呼ぶ」とときには気を付ける必要がある。もの食べて教師から「おいしいよね」というと恣意的になってしまう。また、人に来てもらうときに、子どもが聞きたいことが一つしかない場合もある。その次の質問が出てこない、レクチャーみたいになるということもある。聞きたいことを整理して編集することも大切。

文責 北沢 宏 (間門小学校)